

武家時代にタイムスリップ

～わんぱくサムライ体験～武士の世界と和の心～

5月27日(土)、郷土資料館で『わんぱくサムライ体験～武士の世界と和の心～』（市主催）が開かれ、約350人の市民が春の一日を楽しみました。

この催しは、子どもたちに武家時代の生活や伝統文化を体験してもらおうと、郷土資料館ボランティアグループSLGや登別市文化協会茶道部、登別伊達時代村などの協力により毎年この時期に開催しているもので、今年で6回目になります。

会場では、流鏝馬やスポーツチャンバラ、茶道、駕籠、昔の遊びなどの体験コーナーのほか、南京玉すだれの披露や、わたあめ、ポップコーン、せんべい焼き、すいとんの試食も行われました。

なかでも、子どもたちの人気を集めたのが、木馬にまたがって矢を射る流鏝馬体験。矢が的に当たるたびに大きな歓声が上がっていました。

また、同館前庭では、花卉が黄色から黄緑色に変わるサクラ『御衣黄』が開花していて、訪れた市民の目を楽しませていました。



▲流鏝馬体験



▲スポーツチャンバラ体験

親子で楽しむ自然の中のようちえん

～こうざんちょう・森のようちえん～



5月27日(土)、ふおれすと鉦山で『こうざんちょう・森のようちえん』（市主催）が開かれ、親子18組が自然体験プログラムと野外での自由遊びを楽しみました。

この催しは、年間を通じて鉦山町の自然の中で幼児とその保護者に、その時々旬な自然の中で活動を楽しんでもらおうと開催しているもので、NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶや文化女子大学室蘭短期大学などがボランティアで協力しています。

5月は、『さくらようちえん』というタイトルで行われ、『はなさかじいさん』の紙芝居の読み聞かせの後、その一場面に登場する灰をつくり、肥料にするなどして、絵本のような世界を演出。最後に桜の木の下で桜もちをつくり、みんなでおいしそうに食べていました。

友だちがいっぱいできるといいな

～あそびの広場
(2歳児グループ)～

6月1日(木)、中央子育て支援センターで『あそびの広場(2歳児グループ)』（市主催）が開かれ、13組26人の親子が参加しました。

この催しは、遊びを通して親子のふれあいや親同士の交流を深め、子どもの健やかな成長を願って、0・1・2歳児ごとのグループに分かれ、それぞれ7日間(週1回)を1回として開催しています。

この日、参加した三平真由美さんと娘の里杏ちゃんは、「同年代の子どもと遊ぶ機会がなかったので、集団の中で遊び、友だちができればと思って参加しました」と話してくれました。

『あそびの広場』は、0・2歳児グループは年2回、1歳児グループは年4回開催する予定で、募集は広報のぼりべつで行っています。

